vol. 11
2010 Spring

ハート
ええじゃないか
友の会

世界が注目する ハートセンターの 治療技術

より質の高い医療の実現に向けて

CCT（Complex Cardiovascular Therapeutics）とは、
重篤な心臓病や血管病の治療について医療関係者がライブ映像などを通じて勉強する学会のことです。
数ある学会の中でも「画期的」と高い評価を得ているCCTは、
循環器医療に携わる人なら知らない人はいないといわれ、海外からも毎年多くの参加者が訪れています。
そして、2001年の発足当初からこの革新的な学会を
先頭に立ってリードしてきたのが豊橋ハートセンターなのです。
鈴木孝彦院長の理念が息づくCCTとは何か？　そしてその目的とは？
1月28日から30日までの3日間、神戸で行われた「CCT2010」のレポートとあわせてご紹介します。

取材・文 / 宗田 律　林 英司

会場の広さと熱気に驚愕！

会場は神戸市のポートアイランドにある、神戸国際展示場と神戸ポートピアホテル。到着してまず目をひいたのが、国際展示場1階にある2つの大きなライブ会場。いずれも1000人以上の集客が可能になっています。2つのライブ会場には、連日朝8時半から、豊橋ハートセンターはじめ、いくつかの病院で実際に行われている治療の様子が次々とリアルタイムで届けられます。説明や会場とのやりとりはすべて英語。ですが、翻訳機が用意されているため英語が苦手な方でも心配はありません。同時通訳によって手技の内容等が瞬時に邦訳されます。巨大なスクリーンに映し出される映像を真剣に鑑賞する来場者の熱気で、場内は静かな盛り上がりを見せていました。

ライブ会場と同等の広さを有する隣のエキシビジョンホールでは、国内外の一流医療機器メーカーが展示ブースを設置。行き交う多くの人々に自社製品を紹介していました。煌びやかに装飾されたブースが立ち並ぶ広大なホール内は、ポスターセッションや、CT等の医療機器のスキルアップセミナーも行われ、常に賑わいをみせていました。

しかし、CCTはこれだけにとどまりません。ライブ会場の他に11もの部屋が用意され、早朝から日が暮れるまで（お昼はランチを食べながら！）、3日間みっちりとさまざまなセミナーや勉強会が実施されているのです。その内容は循環器内科だけにとどまらず、心臓外科やコメディカル（技師や看護師など医師以外の医療従事者）に向けたものなど多岐にわたります。

総じて、参加者一人一人が、会場で一つでも多くのことを吸収しよう、という活気とやる気に満ちあふれた「実のある学会」との印象を強く受けました。

CCTが誕生するまで

CCTの真髄は、なんといってもライブ・デモンストレーションにありますが、その起源は、1990年代の初頭、豊橋東病院で行われた一つの試みにまでさかのぼることができます。当時から鈴木院長のモットーは、「百聞は一見にしかず」。他人から聞いただけ、教科書を読んだだけの知識では医療技術は向上しない、というものでした。そこで、豊橋東病院からホリデイイン豊橋（現・ホテル日航豊橋）のシアターへライブ映像を飛ばし、手技を公開することによって、風船治療に携わる医師同士の技術を高めていこうという会が開かれたのです。

その後、鈴木院長、加藤修Dr.（現・豊橋ハートセンター研究所長）、故玉井秀男Dr.（元・草津ハートセンター院長）の3人が発起人となり「中日本インターベンションカンファレンス」が立ち上げられ、豊橋、大阪、京都などで持ち回りのライブを実施。1997年には、新しいメンバーも加わり、CCIC（Complex Coronary Intervention Conference）が誕生します。

ほどなくして世界で評判となったCCICは年々参加者が増加したため、より大きな会場の必要性に迫られます。いくつかの候補地の中から、交通の便のよさ、常時1000人以上を収容できる会議室2つと広い展示会場の設置が可能だったこと、宿泊施設に隣接していたことが決め手となり、神戸国際展示場が選ばれます。こうして2001年、開催地を神戸に移し、CCTと名称を変更、世界有数の学会へと成長を遂げていくことになるのです。

ライブ映像を通して学ぶことの意味

ライブの醍醐味は、何と言っても治療内容の詳細を包み隠さず公開する点にあります。治療は常に完璧にいくものとは限りません。時には、思うように進まなかったり、トラブルが発生することもあります。その際、術者やスタッフがいかに対処していくのか。大画面のモニターを通してこれらを学ぶことが出来るだけではなく、会場の司会者やコメンテーターの方々の智恵をしぼって、皆でより良い治療法を選択し、最高に質の高い医療を求めていく場にもなっています。

CCTに設置された2つの大きなライブ会場（メインシアターとマスターシアター）は、そうした意味においても重要です。前者では多くのドクターによるオーソドックスな手技を、後者では鈴木院長らの卓越したこだわりの手技を見る事ができるからです。

詰まった血管を通す技術も十人十色です。いろいろな医師の技術や戦略を見ることはこの上なく貴重な経験となります。「教うるは学ぶの半ば」、「教えることが勉強になる」という自身の言葉通り、鈴木院長も若いドクターの治療方法を見て「ハッ」と気付かされることがあるのだそうです。

このようにCCTは、治療の様子を公開することによって、参加者全員が「実践」を勉強し、互いの医療技術を高めることができる場として画期的な存在となっています。

また大川育秀副院長はじめ、米田正始Dr.（名古屋ハートセンター副院長）、南淵明宏Dr.（大和成和病院院長）ら、臨床の重要性を説く外科医の参加により、心臓外科のプログラムが充実していることもCCTの特徴といえるでしょう。

年々評価が高まるCCT

近年、参加者として爆発的に増えているのが、技師（士）や看護師といったコメディカル部門の人たちです。鈴木院長は、20年以上も前から風船治療における「チーム医療」の大切さを唱えてきました。日進月歩で発達する技術や機械を駆使して高度な医療を実現するには、ドクター以外の人たちのレベルアップが必要不可欠なのです。

CCTでは、実際の治療におけるチーム全体の動きが見渡せるような「コメディカル・ライブ」など各種セミナーが用意され、ビギナーから熟練者まで、個人のレベルにあわせたスキルアップができるようになっています。

コメディカル同様、年々増加の一途を辿っているのが中国、韓国、台湾などアジア諸国からの参加者です。日本（特に豊橋ハートセンター）が世界一を誇る「CTO（慢性完全閉塞）の血管を通す」というハイレベルな技術が高い評価を得ているからです。中でも経済発展の目覚ましい中国では、心臓疾患を持つ患者が急増しており、医師の技術向上に対する熱意には目を見張るものがあります。

「患者様中心の医療」のために

今や国境を越えた勉強会の場となったCCTですが、その究極の目的は、学会をより大きくすることでも、症例を沢山こなすことでもなく、「医療の質を高め、広める」ということにあります。その結果、負担も少なく高度な医療行為が、広く患者側に還元されることになるのです。

「患者様中心の医療」という豊橋ハートセンターの理念が根底に流れるCCTは、今後も着実に発展していくことでしょう。

循環器内科部長（医師）

江原真理子さん
えはらまりこ

1965（昭和40）年、東京都生まれの江原先生。幼少の頃は、両親の仕事の関係で各地を転々。その範囲は国内だけにとどまらず海外にまでおよび、小学校は5回（！）も変わったという。ようやく落ち着いた場所は神奈川県。地元の高校を卒業した後、東京医科歯科大学に入学。緊張感溢れる循環器医療の現場で働く先輩医師の姿に刺激を受け、循環器の専門医になることを決意する。

卒業後は大学病院で1年、長野県の総合病院で7年ほど勤務し、2000（平成12）年6月、豊橋ハートセンターに着任する。「豊橋に来たきっかけは、鈴木院長の講演を聞いて興味を持ったこと。かねてから習得したいと思っていた、カテーテル治療の分野で名を馳せていた当院に魅力を感じたこと。この2点です」。

それから4年後の2004（平成16）年9月、豊橋ハートセンターに「心臓CT検査」が導入された。「今でこそ日常臨床において珍しくなくなった心血管CTですが、それ以前は研究レベルでの使用が主であり、当時は世界でもようやく臨床に本格的に応用され始めたころでした。したがって当初は、診療放射線技師さんたちと共に連日手探りの状態で仕事をしていました。とても大変でした」。

最後に江原先生から会員の皆様に一言。「当院ではスタッフ全員が患者様に最良の医療を提供しようと頑張っています。とはいえ、最終的に健康を守るのは自分自身です。病院はあくまで皆様のお手伝いする場所。患者様一人一人がご自身の健康に留意していただけるよう願っております」

豊橋ハートセンター スタッフ紹介

STAFF

いつでも気軽にお声をかけてください！

口ノ町俊嗣さん
くちのまちとしつぐ

診療放射線技師

1980（昭和55）年、鹿児島県霧島市生まれの口ノ町さん。幼少の頃から身体を動かす事が大好きで、小学校の成績表にはいつも「やんちゃ」と書かれていたそうだ。高校を卒業し、岡崎市にある「東海医療専門学校」に入学。「昔から目立ちたがり屋で、人と違う事をしたいと常々思っていました（笑）。そして人と接する事が大好きだったので、将来はそれが可能な職業に就こうと考えていました。熟考した結果、医療の世界に魅力を感じ、放射線技師になることを決めました」。

専門学校卒業後、当時増設中であった豊橋ハートセンターに新卒で入職。「増設して間もなかった当院は、連日猫の手も借りたいほどの忙しさでした。始めの頃は、勤務が夜中の1時を過ぎる事も頻繁にあり、大変な所に来てしまったな、と（笑）。その上、主な仕事が血管造影でしたので、専門学校で習った事がほとんど役に立たない。実に難儀でした（笑）」。

最初の1年間は外来を担当。「一日に100人近くの方々と接していたのですが、現在はカテーテル室がメインなので、多くの患者様と接する機会が減ってしまい、少し寂しいです」と口ノ町さんは言う。「カテーテル室では入室から退室まで1人の患者様と接することができるので、その機会を大切にしています。治療が上手く行った時、患者様のほっとした表情を見ると、とても嬉しく思います。友の会を出会いの場として、患者様同士が仲良くなり、待合室などで談笑しているような雰囲気の病院になっていけばいいな、と思います」

鈴木院長の辛口は、患者を想うがゆえの愛の鞭！

川﨑貞治さん
かわ さき さだ はる

1957（昭和32）年、名古屋市に生まれた川﨑さん。現在は豊橋に在住し、パソコンやOA機器を取り扱う会社を経営している。豊橋ハートセンターとは創業時からの付き合いがあり、院内のパソコンやOA機器の管理は川﨑さんが引き受けている。

体力・気力共に充実していた川﨑さんであったが、昨年4月、突如として体調に異変を覚えた。「休んでも全く疲れがとれなくなりました。歳のせいだろう、と高を括っていたところ、次第に視界がかすみ始め、喉に異常な渇きを覚えるようになったのです。さすがにおかしいと思って鈴木院長に相談したところ…」。診察の結果、重度の糖尿病だということが判明。ヘモグロビンA1cは10.7で、即座に入院が必要なレベルであった。「昔から甘い物が大好きで、体重も100kgを超えていました。鈴木院長からはお馴染みの辛口で『このままでは死ぬよ』と脅されましたが（笑）、『適切な処置と食事制限を開始すれば必ず良くなるから、頑張って治しなさい』と励ましの言葉もいただきました」。

初外来の翌日から鈴木院長の指導の下、徹底した食事制限と体調管理を行った。その結果、半年後には80kg台後半まで体重は下がり、ヘモグロビンA1cも通常値に戻った。「糖尿病は油断していると誰もがなる恐ろしい病です。働き盛りの方々には特に気をつけてもらいたいです。ちょっとおかしいな、と感じたら即座に生活習慣の改善に努める事ですね。病は未然に防ぐ事を心がけなさい、と辛口院長もおっしゃっています（笑）」

MEMBER 会員のご紹介

身体が動かなければ、頭を動かす！
頭脳労働で日々を楽しむ！

山中英俊さん　正子さん
やま なか ひで とし　まさ こ

1937（昭和12）年、豊橋生まれの山中英俊さん。幼少の頃から生真面目だった山中さんは、中学卒業と同時に父親の営む建築業の仕事を手伝い始め、陰日向なく一生懸命働いた。20歳の時に生涯の伴侶・正子さんと結婚。夫婦で力を合わせ、今日に至るまで様々な労苦を乗り越えてきた。

1992（平成4）年に実母が病に臥した時も、夫婦共々付きっ切りで看病した。だが翌年、その疲れで山中さん自身が体を壊してしまう。ある日、激しい痛みを胸に覚え、豊橋東病院に駆け込むと「重度の狭心症です。即座に入院が必要」と告げられた。それからの17年の間に、脊柱間狭窄症の手術、心臓バイパス手術、PCIは20回以上も受けることとなった。「体の調子を崩し、私は次第に気弱になっていきました。ですが、いつも鈴木院長は親身になって私を励ましてくれました。心臓と無関係の病状に関しても、嫌な顔一つせず相談にのって下さり、ご多忙の中でも率先して紹介状を書いてくれました。私は鈴木院長の温情に心底感謝しています。担当医の江原先生にもまだまだ大丈夫、と励まされ、先が明るくなりました」。

以来、山中さんは密かな楽しみを見つけ、充実した日々を送っている。「写真やビデオの編集作業を趣味にしています。30年前から撮りためた家族の膨大な記録を、妻と共に記憶を辿りながら時代別にまとめて行くのです。体は満足に動かせませんが、頭を使うことは出来ます。いつか編集した記録を子供や孫達にプレゼントしてやることが、我々夫婦の楽しみなのです！」

文／林 英司

胸がどきどきする話 11

私のドキドキ

豊橋ハートセンター
循環器内科医長　木村祐之

「私のドキドキ」というテーマを頂き、一体今自分が何にドキドキするのであろうか？ということを今一度、考えなおしてみた。

1 まず、人間として

「ドキドキ」は、言い換えると「刺激」である。子供の頃は色々な場面でドキドキしたものである。例えば遠足の前日はドキドキして眠れなかったし、発表会の直前などにはドキドキし過ぎて腹痛を起こした記憶がある。ドキドキというのは、人間のあらゆる感情の元に生じるものであり、怒り、悲しみ、喜びなどのすべての感情において生じうる。しかし、残念ながらそのドキドキ感は年をとるにつれ減っていっているような気がする。

少々難しい話になるが、人間のすべての臓器には「プレコンディショニング」という機能が備わっている。簡単にいえば「慣れ」である。この言葉は心臓でいうとあらかじめ狭心症を何回も起こしていた患者さんの方が心筋梗塞になった際に、比較的ダメージが軽くて済むというものである。40歳になった今でも勿論ドキドキすることはたくさんあるが、昔より減ってきたと思う。できれば喜びでドキドキし続けたいものである。

2 次に、男性として

このサブタイトルを見ればどういう話の内容になるかは容易に想像できると思われるが、全く想像を裏切らなくそういう話である。「草食系男子」という言葉が飛び交っている昨今、巷には男か？女か？ようわからんような若者をよく見かける。昔的な考えであるが、やはり男は男らしく！というのが望ましく思う。男性としてはやはり魅力的な女性を見ればドキドキしたいものである（男性を見てドキドキしたら問題だと思うし）。

最近テレビなどを見ていると恋愛ものが必ずある。おそらくテレビや小説、映画の世界の中で男性と女性の恋愛をテーマにしたものが結構な割合を占めているのではなかろうか？　しかし私は既婚者であり、基本的？には妻以外との恋愛はご法度である。そうであれば妻にドキドキしないといけないことになる…。既婚者の多い年代をターゲットにして、恋愛もののドラマを作るのは明らかに"罠"である。非常に自分勝手な言い訳であるが、男性としてもやはりドキドキしないといけないのではないか？と思う部分で葛藤があり、なんとか合法的？に男性としてドキドキする方法はないか？と考えながら最終的には夜の街に繰り出すことになってしまうのである。

3 はたまた医者として

医学的にいえばドキドキいうのは二種類あると思う。血圧が急に上がることによるものと、脈拍数が上がる場合の二種類がある。前者は"発作性高血圧"であり、後者は"頻拍症（不整脈）"である。個人的な経験をお話すると、米国の病院に勤務していた時の話であるが、仕事上のストレスがピークに達しようとしていた時に突然ドキドキ！ドキドキ！頭はフラフラになった。血圧が下がったのかと思ったので、近くにいたナースに血圧を測ってもらったらなんと190／110であった。すぐさまヘッドギアをはめられ、同僚に取り囲まれ頭のCT検査室に連行されてしまった。

人間の脳には一定の血圧範囲では脳血流量は変わらない装置がついているので、フラフラなどの症状があるということはその範囲を超えて何かが起こっているということになる。結局私の脳内、心臓にも何も異常はなく、仕事の内容を変えることで嘘のように治ってしまった。できれば仕事やストレスではドキドキしたくないものである。

4 最後に、循環器内科医として

私が循環器内科医として昔していた仕事で「タコつぼ心筋症」という病気がある。日本名の「タコつぼ心筋症」は私の元上司が命名したものであるが、全く"たこつぼ"の形をしていないのにこんな名前になってしまった。英語では"Broken Heart（ブロークンハート）症候群"ともいう。この病気は高齢女性に断トツに多く、過度の感情（主に非常に悲しいこと、激しい怒り）の後に発症し、心臓の先っぽの部分（ハートの先端）が全く動かなくなり膨張する病気である。勿論ドキドキもするし、心電図も変化し軽度～中等度であるが胸痛も伴う。私が経験した患者さんはゲートボール中に負けてカーッとしてドキドキして止まらなくなり病院へ搬送された。

しばしば心筋梗塞と間違われ搬送されてくるこの病気だが、そこまで重症ではなく、なにも治療しなくとも約2週間くらいで心臓は動き始める。まだその原因は完全には明らかではなく、起こさないための治療法もない。"女心"はわからないものである。

以上「ドキドキ」について執筆させていただいたが、「ドキドキ」というのは医学的にいえば症状であるが、同時に生きてく上でのモチベーションにもなりうる。「ドキドキ」のない人生には刺激がないが、それは年を追うごとに減っていく。また「ドキドキは大切」と書いたが、ドキドキし過ぎも禁物である。幸運なことに今はまだまだいい意味でドキドキすることはたくさんあり、やりがいもたくさんある。適度な「ドキドキ」を感じながら"人"として"男性"として"医者"として人生を歩んでいきたいと思う40代の始まりである。

家田 理

ええじゃないか 生きていれば 7

しあわせって何だろう？

今から二十数年ほど前に、
中学校の立志式の
講師によばれて、
幸せについて
話したことがある。
そのころ流行っていた
テレビコマーシャルが
「しあわせってなんだったっけ。
ポン酢醤油のある家さ」
だったので、
当時のこどもにとって、
もはやモノのあることは
しあわせではなくなったんだと
話したことがある。
それからさらに二十数年、
テレビで再び
そのコマーシャルが
よみがえっているのを見て、
あらためて
今の子どもたちにとっての
しあわせって何だろうと
考えてみた。
モノでないことはたしかだが、
それなら何が
しあわせなのだろうか？

TOYOHASHI HEART CENTER

ちょっと怖い薬の話

豊橋ハートセンター 薬剤師 芦川直也（あしかわ なおや）

糖尿病の薬について

糖尿病は、おしっこが出なくなってしまう「腎症」や網膜の毛細血管が破れて目が見えにくくなる「網膜症」、足先などに症状があらわれる「神経障害」や「閉塞性動脈硬化症」、さらには「狭心症」や「心筋梗塞」、「脳卒中」など、多くの合併症を引き起こす、とても恐ろしい病気です。

一般に糖尿病には、血糖値（血液中のブドウ糖の量）が上がらないよう、インスリンの注射、インスリンの分泌を促す薬、糖の吸収をおだやかにする薬などが処方されます。これらによって、血糖値を下げる事はできますが、血液中の糖分は消えて無くなる事はなく、脂肪となって体内に蓄積されるため、体重が増えやすくなります。血糖値を下げる薬は太ると効きにくくなってしまうため、体重の管理を怠ってしまうと、薬が増える⇒太る⇒さらに薬が増える…　という悪循環に陥り、これを繰り返している間に薬が効かなくなってしまうのです。また、同じ脂肪でも内臓脂肪が増えてしまうと、悪玉ホルモンを排出して血管を傷つけ、動脈硬化を進行させてしまいます。

糖尿病の予防、及び治療を成功させるためには、太らないこと、太っていれば痩せることが一番です。そのためには「適度な運動を行い、脂肪を燃焼させる」、「太らない食事を摂る」、この2点を心がけましょう。糖尿病の薬は、あくまで「治療を助けるもの」ということを忘れないで下さい。

痛み止めの薬について

痛み止めの薬は、「比較的副作用が多い」といわれています。中でも「ロキソニン」「ボルタレン」という薬は、特に注意が必要です。これらを服用して、おしっこが出にくくなったと感じた場合はすぐに中止し、医師に相談して下さい。特に心臓のポンプの働きが弱っていて、腎臓が悪いと言われている方は要注意です。また「バファリン」「バイアスピリン」などの血を固まりにくくする薬を服用されている方が、痛み止めの薬を常用すると、消化性潰瘍を生じる危険性が高まります。痛み止めによる消化性潰瘍は、吐血や下血といった酷い症状が出るまで自覚がない場合もあります。痛み止めの薬は、痛い時にしか使用しないよう心がけ、胃薬が処方されていれば必ずいっしょに飲みましょう。

最後に、薬を自己判断で中断することは絶対に避けてください。気になることがあれば、必ず医師・薬剤師の指示を仰いでください。

ハートええじゃないか友の会講演会より　2009年12月2日豊橋ハートセンターハートホールにて

HEART INFORMATION ハートインフォメーション

宗田理会長　7ヶ月ぶりの講演！

宗田理会長

鈴木健先生

2月19日、豊橋ハートセンター・ハートホールにて、第23回ハートええじゃないか友の会講演会が開催されました。昨年の夏より、療養のため一時講演会を欠席していた宗田理会長が復活し、以前にも増して元気な姿を見せてくれました。

第一部は宗田理会長の「生きていれば、ええじゃないか」(！)でした。内容は脳梗塞について。自身の闘病生活から回復に至るまで、脳梗塞にならないための予備知識などを、いつもの軽妙な調子で披露。会場は大いに盛り上がりました。

第二部の講演は、東三河戦国史愛好会代表の鈴木健先生でした。内容は自身が長年研究を続けている「長篠の合戦について」でした。現・新城市周辺の地図を用いて、合戦当時の様子を事細かに説明。時折「有名な武田の騎馬軍」や、「織田信長が使用した3千挺の火縄銃」は歴史家の創作であった？！など、思わず誰かに話したくなるような、貴重なお話も沢山聞く事ができました。

「自分自身の健康について話したい」、「あんな先生からこんな話が聞きたい」など、
講演会へのご希望を事務局まで遠慮なくお寄せください。ご意見をお待ちしております。

豊橋ハートセンターから講習会等のお知らせ

全ての参加費無料！
事前予約の必要はありません

会場 / 1Fハートホール

栄養教室

今後の予定

4月14日(水)20日(火) 10:30～12:00『強い骨を作る食事』
試食品をご用意しております！

5月　『食物繊維の上手なとり方』
6月　『糖尿病の食事療法』
7月　『コレステロール・中性脂肪を下げる食事』

※実施日が決まりましたら院内掲示、ホームページ等でお知らせいたします。

救急蘇生講習会

4月17日(土) 10:00～12:00
救急蘇生法とAEDの使い方を身につけよう！

どなたさまでもご参加頂けます。ご家族さま、ご近所さまとお誘い合わせでお越しください。

以降の実施予定　5月15日(土)

岐阜ハートセンターから講習会等のお知らせ

全ての参加費無料！
事前予約の必要はありません

会場 / 1Fハートホール

栄養教室

4月7日(水) 14:30～15:30『体重コントロール』
5月10日(月) 14:30～15:30『栄養の基礎知識』
6月2日(水) 14:30～15:30『糖尿病の食事療法 糖質制限食』

♥ ハートギャラリーのご案内 ♥

野村しげよ 油彩展　～5月末
鈴木啓一 写真展　6～7月末
《白鳥に出会って10年》

お申し込み・お問い合わせ

ハートええじゃないか友の会事務局

Tel.0532-37-8910
9:00am ▶ 5:00pm（土・日・祝日を除く）

〒441-8530 愛知県豊橋市大山町五分取21-1
豊橋ハートセンター内
E-mail. tomo@heart-center.or.jp

ロゴマークデザイン：栃久保操　会報誌デザイン：小林厚子